

第一回環境エンリッチメント実践型ワークショップの開催@京都市動物園

Report of the workshop of environmental enrichment for zoo animals in the Kyoto City Zoo

山梨裕美(京都大学野生動物研究センター/SHAPE-Japan)・橋本直子(京都大学霊長類研究所/SHAPE-Japan)・田中正之・和田晴太郎・岡橋要・長尾充徳・岡部光太・島田かなえ(京都市動物園)・小倉匡俊(北里大学/SHAPE-Japan)・萩原慎太郎(福山市動物園/SHAPE-Japan)・三家詩織(京都市動物園/SHAPE-Japan)・山崎彩夏(多摩動物公園/SHAPE-Japan)

概要 Summary

2016/1/30にSHAPE-Japanと京都市動物園の共催で環境エンリッチメント実践型ワークショップをおこなった。スタッフを含め、全国から54名の参加があった(一般募集は定員30名でおこなった。)。内訳は研究者4名、学生12名、動物園水族館関係者38名であった。環境エンリッチメントをより発展させるために、講演と3種のネコ科動物(ライオン・トラ・ジャガー)を対象とした環境エンリッチメントの実践を通して、議論を深めることを目的とした。当日の様子を報告する。

We held the first environmental enrichment workshop in the Kyoto City Zoo on 30th January, 2016. It included the series of lectures given by researchers and keepers, and implementation of environmental enrichment for three feline species (lions, jaguar, tiger). 54 people (4 researchers, 12 students, and 38 people who belong to animal-holding facilities) gathered to discuss the future of environmental enrichment in the zoos.

一日のスケジュール

9:00	開会あいさつ ~田中正之(京都市動物園)~
9:05	1日の流れの説明 ~山梨裕美(SHAPE-Japan/京都大学・野生動物研究センター)~
9:10	講演1 学術的観点から環境エンリッチメントを再考する~八代田 貴人(岐阜大学・応用生物科学部)~
9:45	講演2 日本国内・世界の環境エンリッチメント事情~①橋本直子(SHAPE-Japan/京都大学・霊長類研究所) & 萩原 慎太郎(SHAPE-Japan/福山市立動物園) ②油家 謙二(天王寺動物園) ③荒井 雄大(福岡市動物園) ④木岡 真一(恩賜上野動物園) ⑤ 和幸(大牟田市動物園)
11:00	休憩
11:10	エンリッチメントワークショップ①: 許容およびグループディスカッション
12:00	昼食休憩 この時間にも作業をさせていただいてかまいません。
13:00	エンリッチメントワークショップ②: 作成
14:00	安全チェックと設置
14:45	観察
15:20	観察結果をもとにしたグループディスカッション
15:40	休憩
15:50	フィードバック 各班8分(質疑含む) 班でのエンリッチメントの内容と結果を紹介する
16:15	講演3 タンザニア・マハレの野生のヒョウの講演から~大谷 ミア(京都大学・野生動物研究センター)
16:35	まとめ 環境エンリッチメントの評価~山梨 裕美(SHAPE-Japan/京都大学・野生動物研究センター)~
16:55	おわりにご挨拶 ~和田晴太郎(京都市動物園)~

一日の様子 Photos of the day



研究者・飼育担当者による環境エンリッチメントに関するレクチャーをおこないました。



用意された材料や道具をもとにトラ・ライオン・ジャガーの3チームにわかれ何を作るか議論します。



計画したエンリッチメント装置の作製に入ります。



作製が終わったら、飼育管理と獣医・安全管理担当の係長による安全チェック。



安全チェックが済んだものから、設置していきます。



動物たちが出てきます。いつになく張り切るライオン、食べ物とれずに苦戦するアサヒ(ジャガー)、ボールで遊ぶオク(トラ)。参加者による来園者に対する解説もおこなわれました。

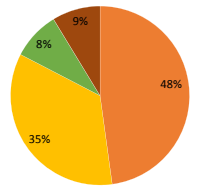


最後に動物種チームごとにおこなったエンリッチメント内容をみんなで共有しました。

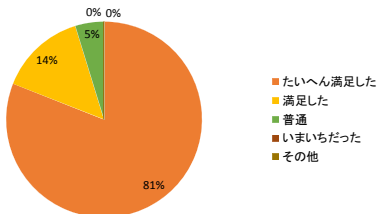
アンケート結果 Survey results

終了後オンラインアンケートをおこなった。一般参加者34名中21名からの回答が得られた。

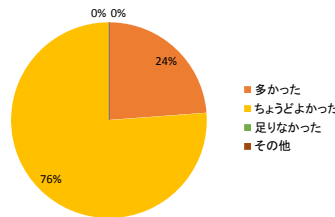
今回のワークショップをどこでお知りになりましたか?
(複数選択可)



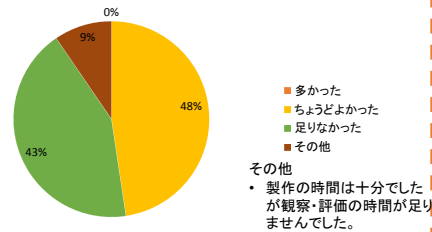
今回のワークショップの感想を教えてください。



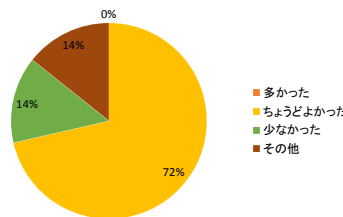
講演の数は適切でしたか?



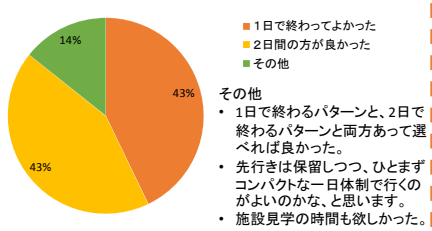
実践の時間は適切でしたか?



エンリッチメントの材料や工具の数は適切でしたか?



ワークショップの日数は適切でしたか?



今後講演として聞きたい内容があれば教えてください。

1. トレーニングやパフォーマンスと環境エンリッチメント。
 2. 環境エンリッチメントと展示効果、あるいは環境エンリッチメントを来園者に伝えるあり方。
- エンリッチメントの具体的な評価方法と評価基準
エンリッチメントの評価方法についてももう少し詳しく勉強する機会があればいいと思う。
エンリッチメント設置による事故例と対応策
コンタクト、ふれあいについて
トレーニング、評価、高齢個体のケア
科学的な評価がされているエンリッチメントについて
海外でのエンリッチメントの事例
海外のエンリッチメント事例、評価、体制、日本の環境(組織)にどう適応していくか等
海外の事例や報告など
今回のように様々な園館での各担当者による具体的なエンリッチメントの取り組みについて聞いてみたいと思います。
今後は、様々な動物種を扱ってほしい
動物園水族館にいる動物の存在意義とは
日本が向かうべきエンリッチメントの方向性

今後対象としてほしい動物種などがあれば教えてください。

- ケープペンギン
コマカワウソウ、クマ、鳥類
ゾウ、キリン、シマウマなどの大型草食動物やクマなどのエンリッチメントに興味があります
海獣類、特にイルカ。これは講演や討論だけでなく是非扱っていただきたいと思っています。
草食獣
草食獣、環境の変化に敏感な臆病な動物
草食動物・鳥類・両性爬虫類
鳥類についてはあまり聞いたことがないので、聞いてみたいです。
類人猿、海生哺乳類、
霊長類
霊長類(類人猿以外)・小型食肉目・クマ・大型草食動物

忙しいスケジュールではあったものの、講演に加えて、計画・作成・実施・観察・評価の一連の作業をおこなうことができた。アンケート結果からは、参加者の満足度がうかがえるものの、実践の時間が短かったという声も見られた。今後は、こうした点を再検討し、種や実施園などを変えて続けていきたい。

謝辞:本ワークショップは下記のプログラムにより支援を受けました。京都大学研究大学強化促進事業「百家争鳴」プログラム、京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンスリーディング大学院、京都大学野生動物研究センター、科学研究費補助金 基盤研究(S)「野生の認知科学: ところの進化とその多様性の解明のための比較認知科学的アプローチ」、(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)。また招待講演者、参加者のみなさま、霊長類研究所の松沢哲郎先生、友永雅己先生、京都大学学際センターのみなさま、京都市動物園のみなさまに心よりお礼申し上げます。